

松本徂夫著：幻の楼蘭 ロプ・ノールの謎 権歌書房出版 A5版 461頁(4,410円)
渡辺 一徳

この度、表記のタイトルの本が出版された。著者の松本徂夫氏は、阿蘇火山の研究者として高名な松本唯一先生のご二男で、九州大学、長崎大学および山口大学に奉職された著名な火山研究者である。また、探検家、登山家としても知られる方であり、中国大陸や山に関する多くの著書も書かれている。

本書は、著者の17回におよぶシルクロード探検のうち、おもに後半の部分がまとめられているものである。

本書の目次を以下に示す（地形・地質に関係の深い7,8章については節まで記す）。

- 1章：楼蘭の旅
- 2章：楼蘭再訪の旅
- 3章：ミーラン素描
- 4章：ニヤ遺跡探訪
- 5章：楼蘭国と鄯善国
- 6章：楼蘭および周辺の探検史
- 7章：シルクロード陥没帯とロプ・ノールの古地理
 - 1) シルクロードのオアシス・ルート
 - 2) シルクロード陥没帯
 - 3) タリム盆地周辺の地形
 - 4) 新生代タリム地域の地形変遷
 - 5) タリム盆地の地質構造区分と沈降・陥没量
 - 6) 第四紀のロプ・ノールの変遷
 - 7) ロプ・ノールの古代湖名
 - 8) 文献上の水系とロプ・ノール
 - 9) 近代のロプ・ノール
- 8章：ロプ・ノールの謎
 - 1) ロプ・ノール論争第一段階
 - 2) ロプ・ノール論争第二段階
 - 3) 楼蘭発見と「彷徨える湖」の提唱
 - 4) ロプ・ノールへの水の復帰
 - 5) ヘデン説引用への保柳氏の見解
 - 6) 中国・羅布泊科学考察隊の成果

- 7) 中国考察隊結論への見解
- 8) 古文書によるロプ・ノールの水
- 9) ロプ・ノールの水量変化原因と湖水変遷
- 10) 「彷徨える湖」の実態

節の構成から解るように、7,8章は、地形・地質的な内容で構成されている。7章は、ロプ・ノールの水量や自然の変化などに関する著者自身の考察が中心である。また、8章では、ロプ・ノール論争、“彷徨える湖”説に対しての著者の考えに基づいて総括的な検討が加えられている。1-6章では、7,8章と関連する歴史や、遺跡に関して、豊富な文献と著者のたび重なる探検の目を通して生き生きと語られている。

本書全体を通じて、著者が若いときから持ち続けたシルクロード、ロプ・ノール、楼蘭への憧れと夢の実現である探検の裏づけの重みが、じっくりと伝わってくる。しかも、地質家ならでの観察と見解が随所に述べられており、大変面白い。

私は、子供のころ夢中で読んだ探検小説「ソロモンの洞窟」を思ひながら一気に読み終えた。本書は、シルクロードに関心があるなしにかかわらずぜひ一読されることをお勧めする。

発行所	
熊本地学会誌	No.143
熊本市黒髪2丁目	熊本大学教育学部
地学研究室内	熊本市地学会
TEL096-344-2111	振替 01960-2-5359